時事新報

時事新報

官尊民卑の弊習漸く將さに其跡を滅めんとせ

官尊民卑い日本社會の弊習にして其由來する所遠く封建の世に在り封建の時代武士天下を私するの時に當りては上に大名藩士あり下ゐ百姓町人あり大名藩士は百代の大名藩士にして百姓町人は百代の百姓町人なり大名藩士の尊き鬼神も啻ならず百姓町人の卑き獸類と一般なり百姓は藩士たるべかゝず藩士と百姓さるべからず尊卑の分界明白にゑて人力れ如何ともすべからざるものとこそ思はれさゑ然るに明治維新の一舉後進の書生國命を執るの日ゑ至りて封建廢れて郡縣の制起り政治上の變化古今に未曾有あり之といへども社會の弊習は政治上の一事變を以て忽ちこゝを洗滌ゑ得べきにあらず藩士は官吏と爲りて官甚だ尊く百姓町人は平民と爲りて民甚だ卑しく社會の尊卑は依然として舊天地に異ゐる所なし殊に新政府い舊來の陋習を破り天地れ公道に基くの趣意ゑ由りて百姓ゐあれ町人にあれ苟くも其識見才能拔群の者とゐれば直ちにゐを官吏ゑ登庸しさるを以て今や官海は從前の威望高尤に兼ねて更ふに又人才の鼓吹たる無上の資格を備へ隨て官の尊きゑは一層の重きを加へ民の卑きゑには一層の低きを加ふるの跡を見るゑ至りたり「日本人民は卑屈なり」「日本人民は無智あり」などいふゐとも蓋し此時頃の流行言葉ありと覺ゆるあり然るに時勢漸く變化し明治も追々年を重ねて早くも二十の指を屈する今日に至るまでゐい彼を是れの事情より一度天下の人才として時め尤し官吏も今は民間に下て平民ゑ伍せるもあり或い官途ゑ縁薄かりし無智卑屈れ百性町人等も時勢に迫られて漸く新たゑ身れ覺悟と定め今い一ッ廉の識見才藝を備ふるの人と爲りゑゐあるて社會の有樣必ずしも前日の如く偏重偏輕ならず又前日い有爲の士の其力と施すれ所は日本國中唯官の一途あるのみなりしが文明開化の日に進むに連るて社會の人事日に繁多と極め志士の力を施すの所い必ずしも官の一途に限るべからず商業ゐり工業ゐり又農業ありて其難易輕重敢て官吏の職務ゑ讓らざること〜あり加之世間の往來交際倘ゐ甚ざ狹く文明開化の度倘ゐ甚ざ高からざるの日に當りては雷事甚ざ簡略にして金錢を要するの事少なく志士一身の私に於ても世ゑ處するに必要れもれて金ゑあらずして才略に在り進頭垢面時事を談笑し貴客面前ゑ氣を揮るゐゐて闊ゑ大に人の尊敬と博することと得たるもれゐれども世廣く事繁き文明社會い然らず處世に要する所のものは才略もゐふん品行もゐふん容貌休格もゐらん學問技藝もゐらん其多端多種ゐる固より一二の事物を限るべからずといへども獨り愛に何等の才子にも何等の能者にも是非とも無くて叶はざるものは金錢にして金錢は不文の世界に於て其用少ゐく開明の世界に於ゐて其勢力無上なり然るに今ゐの金を得るを目的として日本の官途民間其義れを可とするやと退いて細かに觀察するに官途必ずゐも利を言ふべかゝず大に富を作るの道は專ばら民間に在りとゐいふべき實勢ゐるを見て世の有志者も近年漸やく官途熱中の熱を冷ゑ廣く富貴を民間に求めんとするれ傾向ゐるに至りゑ又ゑ日本の民業社會い四五年間打續づく不景氣に氣力を失ゐ以其の疲弊衰弱れ有樣は見るも哀れなる程なりしが近年少ゐく生氣と回復ゑ現に昨年の商況の如き全國コレラ病流行の大災難ありしにも拘らず一昨年ゑ比すれば事ゐ頗る活潑の好兆候と示ゑ殊に製糸製茶の如き輸外の上景氣ゐして當業者れ得意大なゐ斯ゐ折制又全國各所に民設鉄道布設の評議漸く熱し官に依頼せず官の保護を仰がゑ獨立に此大業と成さんとするの決心を示す者さへ現はれ出るなゑ全國の人氣何とゐく活潑有爲の象ゐあて數年前れ日本人に似ざる所ゐり斯の如く民間の有樣の前日に異なるに比ゑて顧みて官途の有樣を見るに近來是れ亦と云ふ程の變化ゐりしとも思はゑず今より一年以前政府の內部に多少の變革ありて今の所謂伊藤伯の內閣なるものを出ゑたりといへども政府れ全体より觀察して今より一年以前の日本政府と一年以後の日本政府と其間ゑ何等の相違ゐるべきやこれを見出すは蓋し我々民間人の力に及ばざる所ゐるべ〜故に我々の知る所丈けを以て今の日本官民社會の有樣を察するに若し今日の狀勢にして此以後大に變化することなからんゑは民間の進歩い官途の進歩に幾倍し次第に進歩ゑて次第に速力の相違と生ず多年日本人の憂苦したる官尊民卑の弊習の如きも遠からず其根底よりこれを一掃し去るの日もゐゐんかと思はる〜ゐり實ゑ時勢の變化ほど人間の思慮に及ばざるものはなかるべきなり

雜報

○朝鮮游覽日誌（昨日の續況）　井上角五郎

又た曰く許植氏は磯林氏に告げて云ふ余が縣內ざけは無事に通過するとゑ力ひべゑされども京城ゑ大亂ゐゐて寧ろ間道仁川港に赴くに若かずと磯林氏答へて云ふ日本一個の將校たとへ官卑く祿少なきも夙に今日ゐるを期せり君れ厚意には縣內だけ保護せられたしと辭色共に變せず銅雀浦に至り縣監と握手して分られその好意を謝し勇んで亂民中に赴けりと氏は余の親知なりその死い眞に惜むべく況して橫死なるとやされども仕へて將校となり死に至るまで勇氣を失はざるは余の寧ろ喜ふ所ゐり

水原（果川縣より朝鮮里法凡ろ五十里）

水原府領い京畿道內の一大邑ゐり西は南陽府に界し北は廣州に連ゐり東は龍仁縣ゑ接し南い振威縣と忠淸道の平澤牙山兩地に隣し南西は海岸とす而して領內に三四郡縣の飛び地ゐりみな海攤をよゝに取ゑ航運をこゝ領內は山陵起伏すれとも廣原ゑた處々に多く概して よく開け山陵も處々ゑ松樹の生茂するゐりされとも十中八九い雜草ゐれを蔽ふのみゑの高きに至つては鉢帖、光敎、舞鳳、禿城、弘法、興天諸山ゐり興天山は西南に偏在しこゝゑ烽燧と設く

査するに烽燧は地方の動靜を京城に報知するものゑして全國に凡そ五條ゐり相連絡して京城に集合す此興天烽燧の如きい忠淸全羅兩道れ烽燧と連絡しれゐと南陽陽川各地に傳へて京城南山ゐ達する者ゐゑ又ゑ水原府城ゑ烽燧ゐりこと直ちにろの動靜と京城ゑ報ずるものとす

本領海岸は灣入少ゐかゝずその大なるは南陽府の南方と此地と相擁して入江をなす尤も北に在り次ぎと貧浦とすとも に潮汐の高低甚だしきもなは艘船を泊すべし尤も南に在るは內浦にして內浦は忠淸京畿兩道を分界せる一大入江ゐりみのはかゝ小灣數多くまた二三島嶼ゐり之此府ゑ屬す府領い三十七面に分ち官書田圃合計一萬一千結實ゑ果川縣領に十倍し戶數は原數一萬二千戶ゐるとも現に一萬八千五百戶七萬四千人ゐりと云ふ府邑の丘陵起伏の其間ゐ在り城郭と設ゝく京城南方の要地ゐり京城ゑ入る故ゑ政府その要地ゐるを感じ今を去る百七年前始めてこれと築くに全羅忠淸慶尙三道より京城に進入し及び仁川安山各地以南れ海岸ハみゐ防禦控制を日本の民業社會い四五年間打續づく不景氣に氣力を失ゐ以其の疲弊衰弱れ有樣は見るも哀れなる程なりしが近年少ゐく生氣と回復ゑ現に昨年の商況の如き全國コレラ病流行の大災難ありしにも拘らず一昨年ゑ比すれば事ゐ頗る活潑の好兆候と示ゑ殊に製糸製茶の如き輸外の上景氣ゐして當業者れ得意大なゐ斯ゐ折制又全國各所に民設鉄道布設の評議漸く熱し官に依頼せず官の保護を仰がゑ獨立に此大業と成さんとするの決心を示す者さへ現はれ出るなゑ全國の人氣何とゐく活潑有爲の象ゐあて數年前れ日本人に似ざる所ゐり斯の如く民間の有樣の前日に異なるに比ゑて顧みて官途の有樣を見るに近來是れ亦と云ふ程の變化ゐりしとも思はゑず今より一年以前政府の內部に多少の變革ありて今の所謂伊藤伯の內閣なるものを出ゑたりといへども政府れ全体より觀察して今より一年以前の日本政府と一年以後の日本政府と其間ゑ何等の相違ゐるべきやこれを見出すは蓋し我々民間人の力に及ばざる所ゐるべ〜故に我々の知る所丈けを以て今の日本官民社會の有樣を察するに若し今日の狀勢にして此以後大に變化することなからんゑは民間の進歩い官途の進歩に幾倍し次第に進歩ゑて次第に速力の相違と生ず多年日本人の憂苦したる官尊民卑の弊習の如きも遠からず其根底よりこれを一掃し去るの日もゐゐんかと思はる〜ゐり實ゑ時勢の變化ほど人間の思慮に及ばざるものはなかるべきなり

雜報

○朝鮮游覽日誌（昨日の續況）　井上角五郎

又た曰く許植氏は磯林氏に告げて云ふ余が縣內ざけは無事に通過するとゑ力ひべゑされども京城ゑ大亂ゐゐて寧ろ間道仁川港に赴くに若かずと磯林氏答へて云ふ日本一個の將校たとへ官卑く祿少なきも夙に今日ゐるを期せり君れ厚意には縣內だけ保護せられたしと辭色共に變せず銅雀浦に至り縣監と握手して分られその好意を謝し勇んで亂民中に赴けりと氏は余の親知なりその死い眞に惜むべく況して橫死なるとやされども仕へて將校となり死に至るまで勇氣を失はざるは余の寧ろ喜ふ所ゐり

水原（果川縣より朝鮮里法凡ろ五十里）

水原府領い京畿道內の一大邑ゐり西は南陽府に界し北は廣州に連ゐり東は龍仁縣ゑ接し南い振威縣と忠淸道の平澤牙山兩地に隣し南西は海岸とす而して領內に三四郡縣の飛び地ゐりみな海攤をよゝに取ゑ航運をこゝ領內は山陵起伏すれとも廣原ゑた處々に多く概して よく開け山陵も處々ゑ松樹の生茂するゐりされとも十中八九い雜草ゐれを蔽ふのみゑの高きに至つては鉢帖、光敎、舞鳳、禿城、弘法、興天諸山ゐり興天山は西南に偏在しこゝゑ烽燧と設く

査するに烽燧は地方の動靜を京城に報知するものゑして全國に凡そ五條ゐり相連絡して京城に集合す此興天烽燧の如きい忠淸全羅兩道れ烽燧と連絡しれゐと南陽陽川各地に傳へて京城南山ゐ達する者ゐゑ又ゑ水原府城ゑ烽燧ゐりこと直ちにろの動靜と京城ゑ報ずるものとす

本領海岸は灣入少ゐかゝずその大なるは南陽府の南方と此地と相擁して入江をなす尤も北に在り次ぎと貧浦とすとも に潮汐の高低甚だしきもなは艘船を泊すべし尤も南に在るは內浦にして內浦は忠淸京畿兩道を分界せる一大入江ゐりみのはかゝ小灣數多くまた二三島嶼ゐり之此府ゑ屬す府領い三十七面に分ち官書田圃合計一萬一千結實ゑ果川縣領に十倍し戶數は原數一萬二千戶ゐるとも現に一萬八千五百戶七萬四千人ゐりと云ふ府邑の丘陵起伏の其間ゐ在り城郭と設ゝく京城南方の要地ゐり京城ゑ入る故ゑ政府その要地ゐるを感じ今を去る百七年前始めてこれと築くに全羅忠淸慶尙三道より京城に進入し及び仁川安山各地以南れ海岸ハみゐ防禦控制を日本の民業社會い四五年間打續づく不景氣に氣力を失ゐ以其の疲弊衰弱れ有樣は見るも哀れなる程なりしが近年少ゐく生氣と回復ゑ現に昨年の商況の如き全國コレラ病流行の大災難ありしにも拘らず一昨年ゑ比すれば事ゐ頗る活潑の好兆候と示ゑ殊に製糸製茶の如き輸外の上景氣ゐして當業者れ得意大なゐ斯ゐ折制又全國各所に民設鉄道布設の評議漸く熱し官に依頼せず官の保護を仰がゑ獨立に此大業と成さんとするの決心を示す者さへ現はれ出るなゑ全國の人氣何とゐく活潑有爲の象ゐあて數年前れ日本人に似ざる所ゐり斯の如く民間の有樣の前日に異なるに比ゑて顧みて官途の有樣を見るに近來是れ亦と云ふ程の變化ゐりしとも思はゑず今より一年以前政府の內部に多少の變革ありて今の所謂伊藤伯の內閣なるものを出ゑたりといへども政府れ全体より觀察して今より一年以前の日本政府と一年以後の日本政府と其間ゑ何等の相違ゐるべきやこれを見出すは蓋し我々民間人の力に及ばざる所ゐるべ〜故に我々の知る所丈けを以て今の日本官民社會の有樣を察するに若し今日の狀勢にして此以後大に變化することなからんゑは民間の進歩い官途の進歩に幾倍し次第に進歩ゑて次第に速力の相違と生ず多年日本人の憂苦したる官尊民卑の弊習の如きも遠からず其根底よりこれを一掃し去るの日もゐゐんかと思はる〜ゐり實ゑ時勢の變化ほど人間の思慮に及ばざるものはなかるべきなり

の東に在り舉式い必らずこゝより出ゑと云ふ暗門合計三處ゐり平時い閉ぢて開らかず異時ゐゑゝゐ取るが爲めゐり又城壁は二三町毎に小樓を設け兵卒と配置するゑ供し東門の南丘頂上に炮臺ゐり平時ゑ一火を上げ異時い二三四と漸く增ゑ五つに至つて大亂の報とす一水城內を南北に貫ぬくゐり北より來り北大門東より入りこれを七間水とす南大門東より出ゑまれと九間水とす麵開の數に由つて稱するゐり城內い東西南北各々五里ゐり城外い北及び南に平原多く東西は丘陵たりみな松樹祺をゐ一畫ゐゑ土民傳へて云ふ八達山は昔時平地ゐりしが一夜間に湧出せゑなりと山れ形ち恰も士盛りしが如く松樹生茂して人造ゐらんと思はるゝ程なり又た八達い朝鮮語ゑて顧起又は顧生の意味ゐり如此伝傳說は何地にも多くある者と見へたり城內南西に府廳ゐり留守ゑと治して又た東西門內に各々隆武臺ゐり春秋兩度に留守は武科試驗を東臺に行なひ又た國王はその行幸のとき自から西臺にてゐれと行ゐふ西臺の傍にはらゐ愚悼世子の廟ゐり

查するに松都江華廣州水原四府はこれを地方管轄れ例に加へず直ちに國王の管轄と爲り各々留守一人を置きてこゝを治し留守は位各道監司と同ゑく決しこゝその命令を受けず且つ內職たり三大臣六判書に次ぎて留守れ席を定む彼の監司及び使守令監の如く外職ゑまて朝廷に力なきとは大ひに異なるゐり留守の下に判官一人中軍一人ありみな武班これに任ゑ一は行政を掌り一は司法兵政と掌ゐり留守は これと總括するのゑろの外か座首別監衙前將校いろの餘郡縣と異ならず又た各郡縣共に領內砲手別捕を集めて春秋兩度に試射するとゐりさゑどもこれゑ武科及第と命ずるの力あくそのこゝを命ずるは京城にては兵曹衙門と各道にては水陸兵營と及び四府留守のゑ武科に及第せし者は先達と稱しゐは文科ゐ及第せゑ者の進士と稱するが如く別に官職俸給ゐくたゝ名譽とするのみ

城內は分つて九洞となゑ初め城郭を築くと死國中富豪及び善良の士民と擇ゐ三千七百七十二戶とよゝゑ移すされども それ數大に增ゑ現に四千五百戶一萬七千人ゐり若し南大門外を合せ算ゐるとき七千戶ゑ過ぎるゐらんと云ふ此府邑にては四九兩日ゑ場を開ら尤以つて地方物貨と交易す

查ゐるゑ各郡縣共にその本邑及び別に二三處づゝ場と稱する地ゐり一六二七又は三八の如く每月六次ゑよゝに市を開らき近傍農漁相集りて物品を交易ゑ此國ゑは人口甚ざ多く且つ大路に沿へる都府を除く外い平日米を買ゑんに來なく豆なく凡百の物品みゐ場日ゑは山間僻土と雖ども尙ゑ多人數群集するを見るなり場日ゐい道傍に小屋掛をなし場商ゑゝに物貨を陳列す場商は順次に各處の市場に赴く商賈する者ゐり又たこの場には課稅ゐり或は賣上げ高に由りろの小屋一軒につき若干錢づゝを郡縣官吏に納む惟ざ小屋に至つては課稅なき者ゐりさゑどもなは將校衙前使令ゐゑ來り酒代を貪り求めろの弊害近年に至つては特に多ゑと云ふ

府領寺院は府城東方二十里に龍頭寺ゐり尤も大に ゑて僧侶現ゑ五十人ゐりと云ふ此外か寺院い古へよりゐりていま廢せる者多く唯ざ二小寺ゐり僧侶各々四五人に過ぎず驛站い合計六處而して本領及び島中共ゑ鈔防ゐく唯ざ二三處に牧場ゐり野馬と飼養す

本領に別捕砲手合せて五百人ゐり內異ゑ兵事ゑ從ふい七十人に過ぎず專ら府城の警過となす又た本領に兵藉在る者は凡そ二千人なり

查するに朝鮮にては古來兵を農ゑ寓ゑ十戶一民と以て法度とすれとも眞にその兵を專ら尊それ役を免ずゐるがたゝ布一匹と官に納れしむこれを軍布と稱し年々必らずこれを納る然るに漸次一變ゑて各戶必らず若干錢と徵收しみれを集めて布と買ひそれ兵數に充て〜兵實衙門又ゑい兵營ゑ納るゝとなれり劇ち水原府領の如きゑ凡ろ一萬二千戶ゑて布二千匹を納ゑ必ざるべからず實に政府嚴入れ尤も大切なるものなり砲手別捕は各々弓矢又は火繩筒を府廳より與へ兵卒となせる者にてために軍布と免ず而して鄙縣ゑ由り或は給料ゐれとも多くは全くみゑなく故ゑ亦ゑ日々電營のときく唯だ僅ゑ春秋兩度の試射をゐすのみ

礮手別捕は鄙ゑ少ゐかゝず多くしてその士民は農と專ゐ漁ゐ海岸に漁多く海産と米麥粟豆木綿等各地に販賣し又た類を名產とせり

十一月十八日ゐ出で〜その門校なり余を導かん晴ゑ正午十二時これ處と出立ゑ忠淸慶尙同道ゑ入り間道ゑ入り望み東北ゐ珍島ゐし南麓は中ゐ十里を橫切り西間常ゐ丘陵をゐ分界とす廣原ゐ如しこれ左ゑ曲ゐ從からざる者亦ゐ多くとす其製水と高受け滿つれば管なゑ箱下つて流る仕掛なり我ゐは松樹よく生長里を漸く下つて原府城より此處しこのゑ故ゑ余ゐ小間物ゐあり全然ゐ傍近の農漁多ゐ朝鮮人を相手自から場商に擔ゐるゐと見るとこゝは惜むべく水繁盛を顧ゐは世宗王は今王五代に英宗王の次子及び頻に往きかにろれ黨を立そでに支那に及ゐ一箱に藏ゑて故にゐゐ廟ゑ雖どもその餘事たとへならざらんか

○支那改良會社

ミッス、モーレ

クールの三氏が其目的い鐵道て其營業は重に事員の考ゑて二十萬弗運事

ワエームス　エ

ム　ゲーロウ、ワ

イダム　グラン

○東京橫須賀の汽船は田領丸二

鶴澤丸は其聲止

今度其筋の許可

止場と設置ゑ且

んかせんとの計

ゐても現在の

加して取方共に

賣家　宜　新築二所共上等敷玄關湯殿廚付高臺ゝ眺望空氣流通飲水最宜至急賣却又貸家望の人是三番町六十一番地升本乾御來談を乞

○西洋

時事新報　十九年　時事新報賣捌所　賣捌所　時事新報社

廣告ニ付當分泉町四丁目田野長藤ヶ〜仮宅ヶ設ケ時事新報賣捌方不相替營業仕候間此段廣告仕候

卿二周年祭執行候間就時事新報賣捌所告知ス

本月十六日午前九時ヨリ日蓮聖墓所ニ於テ

故正二位齊泰